
深夜番組

小高まあな

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

深夜番組

【Nコード】

N8037N

【作者名】

小高まあな

【あらすじ】

あたしの好きな彼は、あたしじゃなく深夜番組に夢中

恋愛？（原稿用紙3枚）

あたしは、ソファ―に座ってただテレビを眺める。くだらない深夜番組。

あの人はあたしの隣で、そのくだらない深夜番組を楽しそうに見ている。

聞こえてくるのはテレビからの音声と、それから時々あの人の笑い声。

くだらない深夜番組にすら、あたしは勝てない。あの人はあたしに見向きもしない。

時計の針が進んでいく。

いつまでこうして時間をつぶすの？　ねえ、こんななのどこが面白いの？

そんな意味を込めて、あの人を見上げる。

ほら、ねえ、あたしを見て。ねえ。

リリリリリリ……。

電子音。

あの人は立ち上がり、机の上の携帯電話を持ち上げる。

慣れた手つきでそれを操作し、メールを読む。

あの人の口元がほころぶ。

それが悔しい。

あたしはあの人にそんな表情をさせたことがない。

あたしは、あの人に近づき、甘えるように体をこすりつける。

あの人は、あたしの方を見ずに、あたしの頭を撫でる。

違うの、そうじゃなくて。あたしを見て。ねえ、あたしをみて。

深夜番組は、いつの間にか映画になっていた。きらびやかな衣装に身を包んだ女性が、笑っている。

あの人は座り、あたしを膝の上に載せる。それから、携帯電話を耳に当てる。

「もしもし？」

ああ、またあの女に電話しているのね。

時計の針は、26時を指す。

電話を終えたあの人は、テレビを消し、立ち上がる。

あたしはその後を追いかける。

布団に入ろうとするあの人に、精一杯アピールする。

ねえ、眠る前にあたしを見て。

「にゃー」

あたしの鳴き声に、あの人はあたしを見る。あたしの頭を撫でて、笑う。

「おやすみ、チビ」

「みゃー」

ああこれで、やっと眠れるわ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8037n/>

深夜番組

2010年10月10日17時24分発行